

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600014		
法人名	株式会社 ユーアンドエヌ		
事業所名	グループホーム いきいきの家いすみ		
所在地	千葉県いすみ市岬町桑田2538		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いきいきの家いすみ」は、緑に囲まれ、自然豊富な静かな環境にあります。建物は、バリアフリーで床暖房やスプリンクラーが設置してあり、利用者様にとって、安心・安全で優しい造りになっています。中庭は広く、芝生が敷いてあります。建物の脇にも、畑があり、利用者様に助言を頂きながら、季節の野菜作りをしています。協力病院が、施設から近く、2週間に1回の往診や週1回の訪問看護、利用者様の状態によって、リハビリの通院をして頂き、健康で安心な日々を過ごして頂けるよう心掛けています。昨年、片ユニットしかなかったリフト浴を、もう1台、増設し、利用者様が安心して入浴を楽しんで頂けるようになりました。利用者様一人一人「その人らしさ」を大切に、ご家族様にとっても安心のできる、アットホームな生活の場の提供を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームいきいきの家いすみは、近隣に協力病院があり、往診・緊急時の受け入れ・リハビリテーションの実施等に連携を図っており、医療面におけるバックアップが敷かれています。また、施設には、行事・レクリエーション・園芸・防災・物品・食品委員会がそれぞれ組織されており、委員会を中心とした話し合いを随時行い、入居者のニーズに応じた支援・生活の活性化へとつなげています。避難訓練は消防署立ち会い訓練・自主訓練を合わせて年4回行っており、避難方法の確認及び防災意識の向上を図ると共に、定期的にコンセンをチェックする等、火災予防にも努めている。今年度は、新たに浴用リフトの設置を行い、身体状況に合わせた入浴支援を可能としている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年3月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関と事務所に掲示している。また、理念とモットーを書いた物を全職員が名札の裏に入れたり、入職時には、理念などが明記してある手帳を配布し、常に意識してサービスの提供ができるようにしている。	「個人の尊重」「安心・安全な生活」を主眼とした施設理念を掲げており、事業所内に掲示している。ネームホルダーの裏に法人理念を明記すると共に、会議の議事録に必ず、施設理念を記載しており、職員が常に目にしながら理念に立ち返るよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、近隣住民の方が参加している。日々の散歩やリハビリの通院時、買物の際には、挨拶を交わす。可能な方は、市内のコンサートや祭事、同グループの行事に参加している。	地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加・施設行事への招待を通じて、地域住民との交流を図っている。また、民生委員の来訪をきっかけにボランティアの輪が広がる等、地域との関わりを年々深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の外出や外泊の際には、支援の方法などを話している。近隣の民生委員の訪問があり、施設見学をし、グループホームの様子を話した。今後、関わりを持っていくようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市との相談により、半年に1回のペースで開催している。ご家族様や地域の方が参加しやすいように市の協力を得て(土)に開催している。そこで、意見としてでた事は、早急に検討し、改善策をとっている。	運営推進会議は年2回開催しており、市職員・民生委員・地域住民・法人の施設職員・家族等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議での民生委員との関わりをきっかけにボランティアの来訪機会が増えており、地域との関わりが深まっている現状を踏まえ、運営推進会議の開催回数の見直しを図り、より地域や行政との交流の促進に努めて頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員とは、施設運営全般に関する相談や月初めに現状報告をしたり、入所の問い合わせに関してや法改正時の事などの相談をしている。また、窓口で施設のパンフレットを置かせて頂いている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行い、連携を図っている。また、地域のグループホーム連絡会に参加しており、連絡会の会議・研修を通じて、同業者との交流機会を設けている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、扉の開閉のセンサーを設置しているが、日中の施錠はしていない。千葉県の身体拘束廃止研修を通し、資料を他の職員に回覧し、周知に努めている。また、接遇を重視し、言葉による拘束がないよう努めている。	身体拘束排除・高齢者虐待防止に関する研修の参加及び研修報告会を通じて、職員へ意義の理解促進に努めている。日中の鍵の施錠は行わず、自由な生活を支援していると共に、ボディーチェック表を作成しており、虐待の早期発見及び防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県の虐待防止研修を受講し、他の職員の周知に努めている。また利用者様の変化の気付きを重視し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県の権利擁護に関する研修に参加をし、研修後、資料や報告書を回覧し、周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入所相談の段階から、グループホームの特徴や施設の様子を話し、説明をしている。また、契約時は、より細かく説明をし、不明な点、不安や心配事がないか確認をし、安心して入所が出来るよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の掲示や玄関に意見箱を設置している。適宜、アンケートの実施、ご家族様の面会時やケアプランの説明時など、可能であれば直接、意見や要望を確認している。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議を通じて、家族の意見・要望等を確認している。また、担当職員による日々の様子を記入した施設新聞を発行しており、信頼関係の構築に努めている。挙げた意見・要望等においては、会議・連絡ノートで周知・検討の上、適切な改善に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接、社長に意見を出せるホットライン制度や、提案制度があり、職員全員が意見を出せる機会がある。また、不定期だが、管理者と職員の個人面談をし、意見の吸い上げに努めている。	定期的に会議を開催しており、職員から意見・提案等を確認している。会議の議題を事前に提示し、職員からの意見を募る等、会議の効率化の工夫を行っている。また、法人にて「ホットライン制度」が導入されており、法人幹部と話ができる仕組みがしかれていると共に、資格取得の支援制度・保育所費用の一部負担等があり、離職防止及び働きやすい職場環境の整備がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の本部会議や職場連絡会などに参加し、会議内での連絡事項はすぐに、職員に通達している。また、ホーム内では、カンファレンスや個人面談を通して意見を出せる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県社会福祉協議会やグループホーム連絡会、いすみ市介護サービス事業連絡協議会などの研修に必要に応じて参加している。また、今後、キャリア段位制度を活用し、職員のレベルアップに努める予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に加入し、適宜、勉強会に参加している。また、地域の他施設の訪問や経営グループの他施設と会議などで意見や情報を交換している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、施設見学を実施するとともに、お部屋が空いている場合は、体験入居も実施している。事前調査の段階から、ご本人やご家族の不安や疑問点を傾聴し、施設の雰囲気にも早く慣れ、馴染みの関係づくりに努めている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談、自宅や病院訪問などの事前調査時に要望を傾聴し、不安な事や要望に関しては、事例を交えて話し、安心してサービスの導入が出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や入所相談に来所された時に、ご家族様の不安な事や困っている事、要望を傾聴し、必要な支援を見極めるように努め、必要に応じて他の施設も紹介したり、連絡を取ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、食事の準備、洗濯物干しや畳む事、掃除など、可能な限り、生活活動を共同で行うようにしている。入居者様から、知恵や知識、思いやりを学ぶとともに癒しを得ながら生活の支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談の段階から、要望を傾聴し、今後の支援の方法などを話している。また、面会や外出も自由で、ご家族様とのつながりを大切にし、何かあれが、電話連絡をしたり、面会時に状況の報告や相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中の面会は自由である。ご家族様の他にも、自宅にいた時に親しくしていた方などの面会もある。また、ご家族様の協力により、定期的に外食に出掛ける方もいる。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けていると共に、希望に応じて手紙や電話のやり取りを支援しており、馴染みの関係継続に配慮している。また、馴染みの商店への買い物を実施しており、馴染みの場所での楽しみを支援している。その他にも、他施設との合同行事等にも参加しており、新たな関係構築も支援している。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の介護記録や申し送りから、利用者様同士の関係性の把握に努め、場合によっては、リビングの席替えを行っている。また、日中は隣のユニットに遊びに行き、談話される事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の協力病院への入院・退所となる場合が多い。病院訪問時には、可能であれば面会をし、看護師や相談員に状況を聞いている。自宅退所になった方に病院などで会う事があると、挨拶を交わし、様子を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査の段階から、ご本人やご家族様の意向や生活歴、状況を確認し、スムーズに共同生活が送れるようにし、入居後は、日々の生活や記録、職員の気付きを通し、情報を共有し、意向の把握に努めている。	本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、医療機関や他サービス事業所からも情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。担当職員による状況報告書提出・会議における事前意見の提出等を実施しており、職員間・家族間での情報共有にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントのセンター方式の一部を活用し、ご家族様の協力を得て、生活歴の把握に努めている。また、面会時のご家族様や知人からのお話、入居後の会話の中からも情報を収集し、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やご家族様、面会者のお話から情報を得たり、毎日のバイタル測定や表情も含め、様子観察、また個々に担当者を設け、現状把握と日々の変化を見逃さないよう努めている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は毎月のカンファレンスにて意見を交わし、ご本人やご家族様の意向や要望、ADLやIADLの状況を踏まえた上で介護計画を立てている。	本人・家族の意向を基に、会議で検討の上、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。軽微・一時的な支援内容の変更は赤字で追記・改訂し、職員へ周知の上、統一したケアの実現に向け取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌や介護記録、連絡ノートにて情報を共有している。介護計画は、毎月、評価をし、変化があれば、その都度、支援の方法を検討し見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買物など、可能な限り利用者様の希望に応じて実施するよう心掛けている。病院の協力を得て、必要に応じて医療保険にてリハビリの通院をし、利用者様の運動機能の低下防止及び向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報やパンフレット、ポスターから情報を得て、公民館や近隣施設の催し物など、地域の中に出掛ける機会を設けている。また、定期的ボランティアの訪問や民生委員の訪問を通し、地域の方と触れ合う機会もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を主治医としている方は、2週間に1回の往診にて、診察をしお薬を頂いている。他の病院への通院、歯科・皮膚科・眼科などへの支援も行っている。	希望のかかりつけ医への受診や内科医・歯科医の往診等を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、訪問看護を実施しており、入居者の健康管理がなされている。協力医療機関のリハビリテーションに通院が可能となっており、入居者の残存機能の維持・向上を支援している。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、協力病院からの訪問看護があり、介護職員からの質問や対応方法の回答、指導を受け、常に適切な健康管理ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院への入院者が多い。適宜、面会に行き、往診医・看護師・訪問看護師・相談員と連携をとり、状態の把握・早期退院に向けての働きかけをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期・緊急時においては、施設の方針を明文化し説明、書面で同意を得ている。重度化した場合は、ご家族・医師・看護師・介護職員で相談をしながら、施設として出来る限りの支援を行う予定である。意向によっては、他施設や病院への移行も検討している。	終末期・重度化における施設方針を説明し、同意を得ている。医療機関とは24時間連絡可能となっており、急変時に備えた協力体制が敷かれている。必要時には、家族の意向を踏まえ、看護師・医師と情報交換しながら適切な支援が行えるよう協力体制を整えている。	終末期・重度化に向けた延命希望確認書等を交わしているが、入居以降の再確認を行っていないので、定期的に再度希望の確認を行い、より新しい家族の意向把握に向けた取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの活用と各種の研修、訪問看護師による指導を通じて、実践に活かすようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の参加協力を得て、避難訓練を実施している。毎回、避難訓練のあとは、消火器訓練や搬送法などの訓練もしている。毎回、改善点など総評をいただき、繰り返し訓練をすることにより、身につくようにしている。	火災報知器・スプリンクラー・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練及び設備点検を行っている。訓練は消防署立会い訓練を年2回、自主訓練を年2回実施しており、様々な状況に合わせた避難方法の確認を行っている。防災委員会を設置し、訓練内容の検討を行う他、コンセンを定期的にチェックする等、火災予防に取り組んでいる。	今後は、地域との災害時における協力体制の協議を行い、防災対策をより強化して頂く事を期待します。

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類などは、鍵のかかる場所に保管し、個人情報の保護を徹底している。職員全員に対して、接遇マナーの指導、利用者様への言葉使いや対応など、プライバシーを損ねないように心掛けている。	理念に「個人の尊重」を掲げており、プライバシー保護・接遇等の研修を実施していると共に、職員心得を配布し、職員への理解促進に努めている。声掛けや言葉使いを入居者の性格に合わせながら柔軟に対応し、その人らしい生活の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に柔軟な対応を心掛け、希望を言い出せない利用者様に対しては、日々の生活の中で、表情や行動の観察や声掛けの工夫で意思をくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、お天気の良い日には、散歩やドライブに出掛けたり、買物に行くなど柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、出張理容を実施している。入居者の希望を聞きながら、カットをしている。また、行きつけの美容院や床屋さんに、ご家族様の協力を得て行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成と食材の納品は、配食サービスを利用しているが、週4回の昼食は、買い出しによる食材を使用している。また、行事の時は、特別メニューを企画し、食の楽しみを広げている。食事作りでは、可能な方にはもやしの芽取りや皮むき、テーブル拭きをお願いしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立においては、職員による献立、業者への委託を使い分け、栄養バランスや入居者の希望に配慮した食事提供を行っている。また、定期的に外食会の実施・特別食の提供等を実施しており、食に対する楽しみを支援している。	食事の際の声掛け及び見守り体制を再度確認しながら、食事時におけるコミュニケーションの促進を図って頂く事を勧めます。

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1人1人の摂取量を把握している。摂取量が少ない場合は、嗜好品や間食、高栄養飲料などで補い、必要な栄養の摂取に努めている。食事の形態については、摂取状況に応じて、お粥・刻み食・ミキサー食の対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。一人で出来る方には声掛けをし、出来ない方には、歯ブラシやガーゼを使用し、介助するなど、個人に応じた介助をしている。義歯は、夜間、預かり洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、適宜、声掛けや誘導にて、出来るだけ失禁がないよう心掛けている。尿便意がなくても、立位が可能であれば、トイレに誘導し、立位不可であっても、尿便意があれば二人介助でトイレに誘導している。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。また、乳製品の摂取・散歩や体操の実施・腹部マッサージ等を行いながら自然排便を促す他、必要に応じて、医師・看護師に相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操や脚の運動、散歩、歩行訓練など、運動を心掛けている。また、必要に応じて、乳製品を提供、便秘予防に乳飲料を個人購入している利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴の予定表はあるが、利用者様の希望や状況に応じて、時間や回数など柔軟に対応している。脱衣室には、エアコンを設置、浴室には呼出しボタンがあり、安全に配慮するとともに、リフト浴にて、当日の状況や能力に応じた支援を行っている。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を設けていると共に、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。両ユニットに浴用リフトを設置しており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が可能となっている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一部の利用者様には、昼食後に居室で休んで頂いている。日中、ご自分の意志で、お部屋で休まれる方もいる。不眠傾向の方には、散歩や日中の活動性を高めるようにし、なるべく眠剤に頼らないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の説明書を個人ファイルに入れて、いつでも職員が確認できるようにしている。確実に服用したかを確認し、記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望や能力に応じて、家事や生活活動などを共同で行っている。毎日のリハビリ体操や脚の体操、レクリエーションでの数字合わせやカルタ取りなど、運動機能維持・向上に努め、お天気の良い日の散歩やドライブ、季節によって、プランターの花の植え替えを一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の状況により、全員での外出は難しくなっている。個人個人の希望にそうように、近隣施設の行事の参加、買い物など、日常的な外出支援を心掛けている。定期的には外食・外出される方もいる。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けていると共に、ウッドデッキや庭を活用しながら気軽に外の空気に触れられる環境整備がなされている。また、定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様はお財布を所持している。必要に応じて、職員や家族、友人と買い物に行かれる方もいる。また、訪問販売で乳飲料を購入される方もいる。また、利用者様に頼まれて、職員が買い出しに行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をすることは可能である。現在、携帯電話を所持している方もいる。また、ご家族から電話があり、直接、話される方もいる。		

【千葉県】グループホームいきいきの家いすみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、玄関・廊下・トイレなど、ゆったりしたスペースが確保されている。共有スペースには、季節の飾りつけや利用者様の作品などを掲示している。リビングには畳のスペースもある。リビングから中庭に出ることが出来る。	共有スペースには、椅子・ソファ・テーブル・和室スペースが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、ウッドデッキ・庭・菜園があり、外気浴・園芸等、気軽に外の空気に触れられる環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル席のほかに、ソファや畳のコーナーがあり、リビングの脇にはウッドデッキもあり、自由に使う事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様には、入所の時に、可能な限り、馴染みの物を持ってきて下さるように話している。希望に応じて、畳を敷くことも可能である。全居室にエアコンと24時間換気扇が設置しており、利用者様の写真や作品、ご家族様の写真などが貼ってある。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、ポータブルトイレやテレビの設置・布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。各居室に鍵・収納スペースが設置されており、プライバシーに配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、居室の入口に表札をつけたり、利用者様の能力に応じて、大きめの字体にししたり、名前を貼ったりして、自立した生活が出来るよう支援している。		